

## 総務常任委員会所管事務調査報告書

### 1. 調査テーマ

「移住・定住について」

### 2. 経過

開催日	主な内容
令和4年6月16日	令和4年第2回定例会所管事務調査 ・一般社団法人 西予市移住定住交流センターにおいて、センターの業務内容の説明を受けた。 ・西予市移住定住空き家活用住宅事業を実施している城川町川津南の現地視察を行った。
令和4年7月27日～29日	総務常任委員会行政視察 ・山梨県都留市、北杜市へ移住定住施策の行政視察を行った。
令和4年11月22日	地域おこし協力隊 OBOG との意見交換会（市民との意見交換会） 場所：ento house 参加人数：13名 ・地域おこし協力隊を卒業し、西予市へ移住された元協力隊員との意見交換を行った。
令和4年12月5日	意見交換会の振り返り ・11月22日の意見交換会を振り返り、今後の方針について委員間で協議を行った。
令和5年3月8日	調査研究の振り返り及びまとめ ・提言等について委員間で意見交換を行い、1年間の調査研究結果についての報告書の作成を行った。

令和4年6月7日に総務常任委員会協議会を開催し、「移住・定住について」を所管事務調査のテーマとし、行政視察、意見交換会を実施することとした。

7月27日からの行政視察では、山梨県都留市、北杜市への視察を行い、移住定住に向けた取り組みについて支援制度の内容を中心に説明を受けた。

11月22日に、地域おこし協力隊 OBOG との意見交換会を開催し、西予市での活動内容や移住した経緯などの意見交換を行った。

### 3. 地域おこし協力隊 OBOG との意見交換会

開催日：令和4年11月22日（火）

相手先：地域おこし協力隊 OB0G

テーマ：（１）西予市に移住した経緯について

（２）移住者を増やすためには

（３）意見交換

#### 意見交換の内容

- ・協力隊は、「地域のために何ができるか」「地域が赴任してきた協力隊のために何ができるか」という良いところがあるので、地域に応援してもらえたことで自分たちの活動が出来た。
- ・地域の方たちの移住者に対する受入体制や理解度が高いから、そのまま定住される方が多い。
- ・子どもの医療、保育体制が充実してほしい。
- ・身近に家族で遊べる施設、公園があると子育てしやすい。
- ・農業に携わりたいという人は多く、移住を考えるきっかけになっている。
- ・移住定住交流センターに協力隊が配置されていて、イベントなどで西予市を知ってもらう窓口ができています。
- ・知り合いがここで楽しく暮らしてる町だから興味があって移住してみた。

#### 今後の課題と対策

- ・福祉関係の仕事をしている方はコミュニケーション能力が高い。保育士、看護師、介護福祉士などの資格を持っている方へ田舎への移住を提案するのもひとつの方法ではないか。
- ・インターネットやSNSを通して、積極的に西予市の自然環境や地域の人柄の良さを情報発信し、西予市を知ってもらう、関わってもらう関係人口づくりに取り組んでいくことが必要ではないか。

#### 4. 所管事務調査の結果を踏まえ、市に対しての提言

- ①移住者が増加した理由や移住元、年齢層などの基礎的な事項の分析が行われておらず、今後は分析結果に基づいた的確な事業実施が必要ではないか。
- ②地域おこし協力隊などによる SNS 等を活用した積極的な PR によって、西予市の魅力を広く情報発信する取り組みが重要ではないか。

#### 5. まとめ

- ・西予市は、令和 3 年度に 95 世帯 122 名の移住者を獲得している。過去 3 年間平均の約 3 倍であり、コロナ禍において働き方の変容により地方への

移住が進んできたことや、一般社団法人西予市移住定住交流センターと連携した移住フェア等の開催によるものと思われる。

また、新規事業として、田舎暮らしに興味を持つ都市部住民と移住者や交流人口を獲得したい地域づくり団体を結びつけるための「西予市移住マッチング事業」を実施するなど関係人口づくりに積極的な取り組みが行われている。

令和5年度は、子育て世代の移住定住に向けた新規事業として、高校生までの医療費無償化や公園整備などが予算化され、さらには、西予市移住定住交流センターの事務局機能と体制強化を図るため、市職員が派遣されるなど、今まで以上に移住者の獲得や関係人口の拡大が期待されるところである。